

(別添)

令和3年度カモ科鳥類の生息調査結果について（速報値）

1 目的

本県の湿地の保全や鳥獣保護区の存続期間の更新等に活用するため、ガン・カモ・ハクチョウ類の冬期の生息状況及び渡来傾向、保護管理を図るべき生息地等についての基礎資料を得る。

2 実施者 福井県

※日本野鳥の会福井県（代表 小嶋明男）に調査委託して実施

3 調査日 令和4年1月10日（月・祝）

※坂井平野のみ、1月9日（日）に実施

4 調査地 県内17か所の河川・湖沼など（別紙のとおり）

5 調査の方法

- ・調査地に定点を設け、その地域に生息するカモ科鳥類を種別にカウント
- ・調査を実施した人数はのべ84人で、カモ類の移動が少ない午前中に実施

6 調査結果（概要）

・飛来数状況

鳥類種	令和3年度※		（参考）令和2年度		前年比	
	種数	個体数(羽)	種数	個体数(羽)	種数	個体数(羽)
ガン類	1種	199羽	2種	1,202羽	1種減	1,003羽減
ハクチョウ類	3種	128羽	1種	132羽	2種増	4羽減
カモ類	18種	25,128羽	17種	23,506羽	1種増	1,622羽増
合計	22種	25,455羽	20種	24,840羽	2種増	615羽増

※調査地別、種別一覧は別紙のとおり

- ・ガン類は減少、ハクチョウ類は微減の一方、カモ類は前年度に比べ増加した。
- ・調査地別の総個体数は、日野川が最も多く4,500羽で、昨年に比べ、個体数は17か所の調査地のうち10か所で増加、7か所で減少した。
- ・昨年と比べ餌場やねぐらの環境に大きな変化のあった調査地はなかった。
- ・福井県では初記録となるメジロガモ1羽が水月湖で確認された。
- ・過去10年の同調査地の総個体数の平均は28,466羽で、今回は平均を下回っており、過去10年間で全体としては減少傾向にあった。

7 その他

- ・カモ科鳥類生息調査は、福井県において、昭和44年度から毎年1月に実施しており、同様の調査は、各都道府県が毎年1月に全国一斉に実施。全国の結果は野生生物保護行政に必要な資料とするために環境省がとりまとめ、確定値として、後日、環境省で発表。

環境省 HP

【ガンカモ類の生息調査 Web サイト】

http://www.biodic.go.jp/gankamo/gankamo_top.html

調査風景

